

アダムとイヴとタカシ

タカシ  
浪人生。

アダム  
最初の男性

イヴ  
最初の女性

蛇谷さん  
タカシの隣人。

ザビエル  
怪しい宣教師

電話しながら帰宅するタカシ。

タカシ

そうそう、うん。あと千円しか残ってないって所でダメ元で一番隅の台に座った訳よ。そしたらそれが大当たり！もうボーナスが止まなくてさあ。あつという間に10万円。バツカお前、これから家賃とか、ケータイ代とか支払が結構あるんだよ。まあラーメンくらいなら奢ってやってもいいけど…お前も神様をお願いしてみろよ。中途半端じゃダメだぞ？必死に、真剣にだ！案外簡単に聞いてくれるって。ははっ、じゃあそろそろきるわ。うん、じゃあ。

タカシ、電話を切る。すぐまた携帯がなる。

タカシ

もしもし…ああ、元気にやってるよ…うん。ちゃんと食べてるって。勉強は…まあそこそこ。今度

は大丈夫だって、絶対受かるから…大丈夫だって言ってんじゃん。もう切るよ？はいはい…分かったって。次の連休には帰るから…うん…はい

タカシ電話を切る。床に置いてある参考書を手に取る。

タカシ 大学病院のお医者さんねえ…何やってんだ俺は…。

呼び鈴がなる。

タカシ はい。

扉を開ける。そこには嘘っぽい外人がたっている。

タカシ あ…どちら様ですか？

ザビエル どうモ、はじめまして。ワタシ、ザビエルいいマス。

タカシ はあ…。

ザビエル ザビエルは本名です。ネタとかではありません。

タカシ えっ？あ…はい。

ザビエル どうか怪しまないでください。

タカシ それよりもあの…要件は？

ザビエル 私はこの辺りをシラミ潰しに回り巡って神の教えを伝えているのです。

タカシ シラミ潰しって…そうなんすか。

ザビエル あなたは最近、神に何かを強く願った事がありますか？

タカシ いや別に。

ザビエル じゃあコノ先にそういうご予定は？

タカシ すんません。そういうの興味ないんで。

ザビエル いや、待って！誤解しないで！ワタシは神の教えをアナタに伝えるにきたただけです！

タカシ ですよね、誤解はしてません。

ザビエル だったら…。

タカシ 本当に興味がないんです。

ザビエル え？

タカシ だから興味がない。

ザビエル マジで？

タカシ …マジ？

ザビエル 神の教え知りたくないの？

タカシ うん。

ザビエル あんた困った時とかに神様お願いしますとかしない？

タカシ する時あるけど、別に本当に信じてる訳じゃなくて…。

ザビエル 神の教えも聞かずにおいしいところだけ貰おうなんて都合よすぎだよお。ずるいよお。

タカシ いや、あの。

ザビエル お前狡猾だよお。

タカシ 狡猾？…あんた日本人だろ？

ザビエル 違うよお。

タカシ、扉を閉める。呼び鈴が鳴りまくる。

タカシ しつけーな！警察呼ぶぞ！

ザビエル 迷える子羊よ。天に召します神の御言葉に耳を傾けるのデス。そうすればアナタは新たな自分を見つけることができます。

タカシ 別に頼んでねーだろ。

ザビエル 少しだけ話聞いてください。お願いします。

タカシ そういうの本当にいいって！

ザビエル 聞いてくれたら…その、コレ！

タカシ 何？

ザビエル J2のチケット。

タカシ せめてJ1のチケット持って来い。

ザビエル じゃあコレ…遊戯王カード…。

タカシ は！？

ザビエル ヤべっ。

タカシ 何？

ザビエル 今日レアカードしか持ってきてないので何か違うモノに…。

タカシ レアでもいらねえよ！何でレアでもないカードで釣ろうとしてんだよ。

ザビエル アナタ、将来に対して不安を感じていたりしませんか？

タカシ はあ？

ザビエル アナタにも夢の一つや二つあるでシヨウ？具体的でないにしても漠然とお金持ちになりたいとか、



有名になりたいとか。でもそれは必ずしも上手く行く訳ではありません。

タカシ  
(参考書に目線をやる)

ザビエル  
欲を持つことは聖書において罪にあたりマス。欲望から解き放たれば人は本当の幸せを得ることが出来るのデス。

タカシ  
それはつまり何も考えずにただ生きろって事？

ザビエル  
いえいえとんでもナイ。欲望があるからこそ人は努力し、自らの進むべき道を見つけ出す事が出来るのデス。

タカシ  
何が言いたいんだよ。

ザビエル  
何かを求め、願うという事は心のどこかで望み通りに行くわけないと自分自身を疑っている。何かを叶える為には疑うのではなく、自分自身を強く信じなければいけないのデス。

タカシ  
……。

ザビエル  
そうすれば必ず神はあなたの声を聴いてくれマス。神を信じるということは、己を信じるという事なのデスヨ。

タカシ　そうやって上手い事いって、俺を騙すつもりなんだろ？

ザビエル　そんなつもりはありません。ワタシは神の素晴らしさに気づいてほしいだけなんです。

タカシ　……。

ザビエル　話を聞いて貰えませんか？

タカシ　…少し話すだけなら。

ザビエル　ありがとうございます。

ザビエル、勝手に中に入ってくる。

タカシ　おい！

ザビエル　お茶とかありません？

タカシ　ださねえよ。図々しいな。

ザビエル　（「え？」みたいな顔）

タカシ 「え？」じゃねえよ。

ザビエル 仕方ないデスね。

ザビエル、遊戯王カードを取り出す。

タカシ 何で出してんだよ！

ザビエル (「え？」みたいな顔)

タカシ だから「え？」じゃねえよ！今から話をするんだろ？

ザビエル 分かりました。ではお話を伺いましょうか。

タカシ 実は俺、医大に行くために勉強中で、もう4浪もしてんのね。

ザビエル 4浪！？キツツイなあー！

タカシ おい。

ザビエル すみません。

タカシ  
まあその…ちゃんと勉強してんだよ？それでも受かんないもんだからさ。何か最近やる気がでないんだよね。

ザビエル  
なるほど。

タカシ  
何で世の中こう上手くないかな？完全に愚痴になっちゃうけど…もう毎日イライラするんだよ。何でも間でもシステム化やマニュアル化して事務的になっちゃってさあ。書面だけじゃなくて、本当に見るべき所ってあるだろ？あんたはどう思う？

ザビエル  
どう思うと聞かれましたも…何かを効率よくする為には必要な物だとは思いますが…。

タカシ  
それがもう古いんだって。時代は変わっていくんだからさ、もつと柔軟にならないと。医者になるには確かに技術や知識も必要だけど、患者さんと向き合える人間性も必要だろ？特に今の時代はさ。

ザビエル  
確かにアナタのいう事にも一理ありますガ…。

タカシ  
あんなペラッペラの回答用紙一枚で自分を判断されるなんてたまったもんじゃねえよ。

ザビエル  
今さらですが、アナタお名前は？下の名前でお願ひします。

タカシ  
俺？俺はタカシだよ。

ザビエル　　タカシさん、あなたにこちらを差し上げマス。

ザビエル、タカシにビニール袋を渡す。

タカシ　　何これ？

ザビエル　　アナタはエデンの園をご存じですか？

タカシ　　聖書とかに出て来るヤツだろ？アダムとイヴがいた楽園の名前だっけ？

ザビエル　　その中身はエデンの土です。

タカシ　　…何言っちゃってんの？

ザビエル　　神はエデンの土で人形を作り、そこに魂を吹き込みアダムを創ったのデス。

タカシ　　急にどうしたんだよ。これドンキの袋だよな？

ザビエル　　先ほども言いましたが、神を信じるといふ事は己を信じる事…裏を返せばそれはアナタ自身が神だといふ事なのデス。この土はアナタの神としての自覚を取り戻してくれるかもしれません。

タカシ いや意味分かんないって。

ザビエル それではワタシはこれで…。

タカシ えっ？

ザビエル あっ、そうだ！これ、聖書。ここに置いときますね。きっと状況の整理するのに必要だと思いますから。

タカシ おいちょっと待ってって。

ザビエル あー忙し忙しっ、忙しいわあ。

タカシ おい！

ザビエルはける。

タカシ ゆっくりって全然話してねえじゃねえか…エデンの土ねえ。

タカシ聖書を手に取る。

タカシ

「額に汗してパンを食べ、ついには地面に戻る。人はそこから創られたからである。人は塵。塵は塵に、灰は灰に戻るべし。」…胡散臭せえ！。

タカシ聖書を投げ捨てる。それと同時に地響きのような音。暗転。

タカシ

えっ？何！？何！？

明転。そこには股間にドンキの袋をつけたアダムがいる。

タカシ

ビビった…。

アダム

うがっ！！（以下それっぽいセリフで）

タカシ うおっ！

アダム (こんちわ)

タカシ お前誰だよ！どうやって入った！？

アダム (大声だしてどうしたの)

タカシ はあ！？

アダム (どうしたの)

タカシ ふざけてんじゃねえよ！

アダム (落ち着いて)

タカシ いい加減にしろよ！不法侵入だぞ！しかもそんな恰好で…。

アダム (何言ってるか分かんない)

タカシ 警察に電話…携帯。

タカシ携帯を探す。アダムが先に見つける。



タカシ  
それ返せよ！

アダム  
……。

タカシ  
返せつつってんだろ！

アダム携帯を破壊してしまう。

タカシ  
ああー！どうしてくれんだよこれ……あーあ……。弁償してもらおうからな！

タカシ、ドンキの袋に気づく。

タカシ  
お前それ……。

アダム  
ムア？

タカシ お前名前は？

アダム ……。

タカシ 名前だよ！俺はタカシ、タアーカアーシっ。お前は？

アダム ワゲエ？（俺？）

タカシ そう、ワゲエ。

アダム ムアーダーム。

タカシ マダム？いやアダム！

アダム ワゲエ！ワゲエ！

タカシ 夢じゃないよな…それともあの似非外国人のドッキリ？でもあの短時間でしかも暗闇で土と裸の

男をすり替える？というかドアの開く音も聞こえなかったし、何よりあの地響きみたいな音だよ！

アダム （俺にかまって）

タカシ いや待て！まだこいつがアダムと決まった訳じゃない。

アダム ヤハウエ！ヤハウエ！

タカシ 少し黙れ！

アダム ヤハウエ！

タカシ ヤハウエ？

アダム タアーカアーシ、ヤハウエ！

タカシ 全く分かん。

アダム タアーカアーシ、ヤハウエ！

タカシ ヤハウエって何だよ…そうだ。

タカシ聖書を手に取る。

タカシ あった！「ヤハウエは天地を創造された。地は混沌であつて、闇が深淵にあり、神の霊が水面を動いていた。ヤハウエは言われた。光あれと。」…ヤハウエって神のことか？

アダム ヤハウエ！

タカシ いや違うから。俺はお前の。パパじゃない。

アダム ヤハウエ！

タカシ マジで勘弁してくれよ。

アダム ヤハウエ！

タカシ だから違うって。

アダム (何言ってるの?)

タカシ って言っても通じないか。(ため息)

アダム (何かしらんが、元気出せ)

タカシ とりあえず服きろ。俺の貸してやる。言っとくけどすぐに出てってもらうからな？

服を持ってくるタカシ。

タカシ ほれ。

服を不思議そうに見るアダム。タカシを見て真似して着ようとするが上手くないかない。

タカシ  
着方がわかんねえのか？しょうがないな。

アダムに服を着せてやるタカシ。

アダム  
（ヤハウエと同じ！やった！）

タカシ  
よかったね。

アダム  
（何か腹減った）

タカシ  
どうした？

アダム  
（腹減った）

タカシ  
何だ？腹減ったのか？

アダム  
……。

タカシ  
まったく……ちよつと待ってる。冷蔵庫にフライドチキンあったから。

タカシ冷蔵庫の所に行く。その間アダムは参考書を見つかる。タカシ入ってくる。

アダム  
（こんなの見つけた！）

参考書を取り上げるタカシ。

タカシ  
勝手に人のモン触んな。

アダム  
（返して！返して！）

タカシ  
止めろ。ダメだって。

アダム  
チョットミルダケ！

タカシ お前今喋ったろ!?

アダム (返して!返して!)

タカシ ああ!ほら、食いモン持ってきてやったぞ!さっさと食え!

アダム (食いモンだ!)

一心不乱にフライドチキンを食べるアダム。

タカシ そんなガツつくな。もっとキレイに食え。

アダム (すげえうめえ)

タカシ 口元ベタベタじゃねえか。

アダムの口を拭いてやるタカシ。

タカシ　まるで子供だな。

アダム　食べ終わった後の骨を袖に投げ捨てる。

タカシ　何してんだよ！

骨を拾いに行くタカシ。

タカシ　いいか？　食い終わった物はそこらに捨てちゃダメ！　とりあえずは皿の上に置く！　いい？

アダム　（肉うめえ）

タカシ　頼むよホント…。

また骨を袖に捨てるアダム。



タカシ  
だから捨て…。

物凄い音になる。二人ビクビクする。

タカシ  
何だ今の…。

アダム  
(マジビクビクした)

袖から少し顔を出すイヴ。

タカシ  
えっ!?

声にビクビクして隠れるイヴ。

タカシ 何がどうなってるんだよ…。

アダム (女だ。女がいた。)

タカシ、恐る恐る様子を見に行く。(袖にはける)

タカシ うわっ！えっ？あの…ちよっ。

イブ (あんた誰！？)

タカシ ごめん！そのっ…。

イブ (あんた怖い人？何もしないでください)

タカシ えっと…あっ、すんませんでした！

タカシ戻ってくる。

タカシ 女だ…裸の女がいる…今度は何なんだ？

タカシ、アダムを見る。

タカシ お前なんかしたのか！？えええ？正直に言えよオイ！

アダム (怖い。止めて。)

タカシ 今日は本当になんつう日だ…ああ、あいつにも服着せてやらないと。

タカシ服を取りに行き、それをイブの所に持っていく。

タカシ それ着てください。

イブ ……。

タカシ  
それを着るの！

イブ  
(ごめんなさい)

タカシ  
ああ、ゴメン。あの…これをね？着るの。こんな感じに。

上手く着れていない様子。

タカシ  
ちよつと失礼します。

袖にはける。(服を着せてやる)

タカシ  
これをね、こうして…そうそう。この穴に首を通して…そう。

興味津々で様子を伺うアダム。しばらくしてタカシとイブ入ってくる。

アダム (女だ！女だ！)

タカシ うるさい！

アダム (怒られた…)

タカシ 大方予想はつくけどお前名前は？

イヴ ……。

タカシ お前もか…まあそうだよな。俺はタカシ、タァーカァーシ。お前は？

イヴ ワゲエ？

タカシ ワゲエ。

イヴ ワゲエ…イイーブウ。

タカシ やっぱりな…。

イヴ ヤハウエ？

タカシ 違う。タカシ。

イヴ  
タ…カア…。

タカシ  
タアーカア…シ。

イヴ  
タアーカア…シ…ヤハウエ。

タカシ  
だから…もういいや。何で突然イヴが現れたんだ？

タカシ聖書を見る。

タカシ  
「神はアダムを深く眠らせ、アダムは眠った。神は彼の肋骨を一本取り、そこを肉で塞いだ。そして神はアダムから取った肋骨でイヴを作り、彼女をアダムの元に遣わせた。」つまりイヴはアダムの骨で創られたと…。

アダム  
（どうしたの？）

タカシ  
鳥の骨じゃねえーかよ！全然聖書と違うじゃねーか！

アダム  
（何怒ってんの？）

タカシ やるならちゃんとやれよ！

アダム (よく分かんないけど、ゴメン)

タカシ (ため息) これから先、お前が原因で他にも何かが起こる可能性があるってことか？

アダム (これ…ごちそうさまでした)

アダムお皿をタカシに渡す。

タカシ まあ、お前のせいって訳じゃないか…大声出して悪かった。

アダム (すごくおいしかった)

呼び鈴がなる。

タカシ はい。

タカシ扉をあける。 蛇谷登場。

蛇谷  
こんにちは。

タカシ  
蛇谷さん。もしかしてうるさかったですか？

蛇谷  
まあ隣まで声はよく聞こえてたね。

タカシ  
すいません。気を付けます。

蛇谷  
別に苦情を言いに来た訳じゃないの。借りてた本を返しにきた。

蛇谷、本を渡す。

タカシ  
ありがとうございます。もう少し借りててもいいのに。

蛇谷  
汚しちゃったりしたら申し訳ないからね。



タカシ　　そうですね。

蛇谷　　そちらの方はお友達？

タカシ　　え、ええ。そのような物です。

蛇谷　　そのような物って、タカシ君はおもしろいね。

タカシ　　ははは。

蛇谷　　はじめまして、隣に住んでる蛇谷です。

アダム　　(どうも！)

イヴ　　(どうも)

蛇谷　　？

タカシ　　ああ、蛇谷さん！あの、こいつら…その、最近日本に来たばかりで、日本語がまだよく分からないんです。

蛇谷　　そうなの？英語だったら少しは喋れるけど…。

タカシ　　英語圏の奴じゃなくて、その…スワヒリ語で…。

蛇谷 スワヒリ語？

タカシ アフリカの民族が使う言語の一つです！

蛇谷 そんなところに知り合いがいたの？タカシ君スワヒリ語喋れるんだ。

タカシ いやっ、あの辞書見ながらやっと会話できるみたいな…ホームステイみたいな感じですかね。

蛇谷 そうなんだ。じゃあまた今度にしようかな。

タカシ 何ですか？

蛇谷 実はまたパソコンの調子が悪くなっちゃって。

タカシ またですか？

蛇谷 本当に申し訳ないんだけど、今度でいいから前みたいに何とか直せないかな？

タカシ 俺も別にパソコン詳しい訳じゃないですよ。前はたまたま上手くいっただけですから。

蛇谷 少なくとも私よりかは詳しいよ。

タカシ よかったら今見にいきますけど。

蛇谷 でもお友達来てるんでしょ？

タカシ え？まあ…少しくらいなら大丈夫でしょ。部屋で待っていてください。

蛇谷 そういつてくれるならお願いするけど…ごめんね。

タカシ いえいえ、お気になさらず。

蛇谷 (アダムとイブに) 少しでもタカシ君お借りしますね。(タカシに) じゃあまた後で。

タカシ はい。

蛇谷はける。

タカシ 少しだけここを離れるから大人しくしてるんだぞ。

アダム (あの人誰?)

イヴ (あの人良い人?)

タカシ 部屋散らかすなよ。すぐ戻るからな。絶対に何も触るな。いいな?

アダム (どこか行くの?)

イヴ  
（どこに行くの？）

タカシはける。二人きりになるアダムとイヴ。ザビエルが字幕を表示。沈黙。

アダム  
（どこか行っちゃったね）

イヴ  
（そうだね）

アダム  
（二人つきりになっちゃった）

イヴ  
（そうだね）

アダム  
（食べ物ほしくない？）

イヴ  
（今は大丈夫）

アダム  
（そっか…俺はアダム。君は？）

イヴ  
（私はイヴ）

アダム  
（イヴか…どうも初めましてイヴ）

イブ (初めまして)

アダム (ここには面白い物がたくさんあるね)

イヴ (考えていた所とはだいぶ違うみたいだけど)

アダム (一緒にこの中を調べてみようよ)

イヴ (え?でも...)

アダム (大丈夫だよ。ほら)

イヴ (何か怖いし)

アダム (平気だって。行こう)

アダム、イヴを引っ張り、部屋を探索する。

アダム (ここは本当に変な物ばかりだなあ)

イヴ (これは何だろう?)

イヴ、ライターを見つける。

アダム

(何だ？これ？)

不思議そうにライターを眺めるイヴ。触ってる流れで火をつける。

イヴ

(何か出た！)

火が消える。またつける。

アダム

(すげえ！)

イヴ

(綺麗だなあ)

アダム  
（ちよつとだけ貸して）

イヴ  
（いいよ）

イヴ、火をつけたままアダムにライターを渡す。

アダム  
（悲鳴）

イヴ  
（どうしたの！？大丈夫！？ねえ！）

タカシと蛇谷が慌てて入ってくる。

タカシ  
どうした！？

イヴ  
（アダムが！）

蛇谷、アダムのところへ。タカシがライターを見つける。

タカシ お前ら何してたんだよ!? (イヴに) お前が何かしたのか!?

イヴ (取り乱している)

蛇谷 止めなさい。ちよつと火傷してるだけ。一応消毒はしておきましょう。救急箱は?

タカシ 持ってきます。

救急箱を取りに行くタカシ。そして蛇谷に渡す。ライターを見ているタカシ。

蛇谷 火傷の原因はそれ?

タカシ 多分…。

蛇谷 ライターで火傷って、子供じゃないんだから。

タカシ こつ、こいつらライターを知らないんですよ。そういう所から来たんで。



蛇谷 えっと、それは何と言うか…何処かの部族的な？

タカシ 部族的な。

蛇谷 そう…じゃあ仕方ないね。ちよつと危なっかしい所があるみたいだからちゃんと見てて上げて。

タカシ はい。

蛇谷 パソコン見てくれてありがとう、それじゃあ。

タカシ こちらこそありがとうございました。

蛇谷はける。

タカシ 怒って悪かった。

イヴ ……。

タカシ お前もこれからは気をつけろよ。この他にも危ない物は沢山あるんだ。ちよつとは勉強になったろ。

アダム ……。

沈黙

タカシ

しばらく一緒に暮らすか！お前らほっとくとどうなるか分かんねえし、他の人にも迷惑がかかるかもしれない！

アダム

(?)

イヴ

(?)

タカシ

もうどうにでもなれだ！何とかなるだろ。

アダム

(どうしたの?)

タカシ

これからいろいろ教えてやるからな。言葉通じないけど、そこはお互いがんばろう！

イヴ

(何か独り言いってる)

タカシ

これからよろしくな！

タカシが二人に笑顔で話かける。

アダム (なんだか楽しそうだな！)

イヴ (よく分からないけどよかった)

タカシ そーかそーか！お前らもうれしいか！

アダム ヤハウエ！（楽しそうでなによりだ）

タカシ ヤハウエ？…そうだ、俺はヤハウエ！お前達の。パパ：俺がお前らの神様になってやる！

≡ 場面転換。三人の生活風景。それから何日か経過。ゆっくり暗転。明転。

タカシ ごちそうさまでした。

アダム (ごちそうさまでした)

イヴ (ごちそうさまでした)

タカシ お前ら箸の使い方だいぶ上手くなつたな。

二人 ?

タカシ ハアーシィー。

二人 ハアーシィー。

タカシ そうそう、箸。食い終わったヤツ自分で片づけろよ。

食べた物を片づけるアダムとイヴ。

タカシ じゃあ俺、晩飯の買い物に行ってくるから大人しくまってるんだぞ。キッチンには近づくな！絶対にダメ！

アダム (キッチンには行くな、ね。分かった)

タカシ じゃあ行ってくるわ。

アダム (いってらっしゃい)

タカシはける。アダムとイヴ、しばらく会話している。呼び鈴がなる。

イヴ  
（誰か来た！どうする？）

アダム  
（勝手に開けてもいいのかな？）

蛇谷  
蛇谷です！誰もいないの？

アダム  
（蛇谷だ！）

イヴ  
（蛇谷だ！）

アダム扉を開けに行く。

アダム  
（いらっしやい蛇谷）

蛇谷  
どうも。タカシ君は留守？

イヴ (今日も遊んでくれるの?)

蛇谷 留守みたいだね。

アダム (まあ上がってけ)

蛇谷 え?上がっていいの?タカシ君いないんでしょ?

アダム (はやく来て)

アダム、蛇谷の手を引っ張る。

蛇谷 じゃあお邪魔します。

イヴ (いらっしやい)

蛇谷 どうも。実家からリンゴがたくさん送られてきてね、お裾分けしようと思って持ってきたんだけど。

アダム (なんだコレ!すげえ赤いぞ!)

イヴ (ホントだ!何コレ!)

はしゃぐ二人をみる蛇谷。

蛇谷 正直言って、昔のタカシ君は何か冴えない感じだったけど今は生き生きしてる。二人のおかげだね。

アダム (何か蛇谷嬉しそうだな)

イヴ (何かいい事があったの?)

蛇谷 でも彼、医大に入るために勉強中なんだけど最近バイトばかりしてる。今年は大丈夫かな?

二人 ?

蛇谷 ああ、ごめん。それ食べていいよ。

アダム (コレがどうかしたのか?)

蛇谷 リンゴ知らないの?

アダム リーナーゴ。

蛇谷 二人の国にはないのかな? 私の好みだけどリンゴは皮のまま食べるのがおいしいんだよ。

二人

……。

蛇谷

食べるの。ほら、こうやってかじる。

イヴ、リンゴを食べる。それを見てアダムも食べる。

蛇谷

どう？おいしい？

二人、震えだす。

蛇谷

どうしたの？大丈夫！？

イヴ

めっちゃおいしい！

蛇谷

えっ？

アダム

ホントだ！すっげえ甘い！うめえ！



アダム リンゴって上手いんだな、蛇谷！

蛇谷 う、うん…。

イヴ それ全部くれるの？

蛇谷 ああ、まあ…そのつもりだけど。

二人ハイタッチする。

蛇谷 どういう事？

アダム こんな上手い物あるんだ。早くタカシにも教えてやらないと。

タカシ入ってくる。

タカシ めんどくせえー財布忘れちゃったよ。

アダム  
タカシおかえり。

イヴ  
おかえり。

タカシ  
おーただいま…え!?

アダム  
タカシ、リンゴって知ってるか?すんごい上手いぞ!

タカシ  
リンゴ?何で!?

蛇谷  
タカシ君。

タカシ  
蛇谷さん。

蛇谷  
二人に日本語を教えてあげたの?短期間にしてはだいぶ上手だけど…。

タカシ  
いやっ特には…リンゴ!

タカシ聖書を開く。

タカシ  
善悪の知識の木の実…。

蛇谷  
タカシ君？

タカシ  
蛇谷さんすいません。一旦席を外して貰えますか？

蛇谷  
でも…。

タカシ  
お願いします。

蛇谷  
…分かった。何かあったらすぐに呼んでね。

タカシ  
ありがとうございます。

蛇谷はける。

タカシ  
お前らリングゴ食べちゃったんだな。

アダム  
うん。上手いぞ。

タカシ  
そっか。まさかこんな事になるとは。

イヴ  
タカシも食べる？

タカシ 後で食べるよ。

イヴ そう。早くしないと全部食べちゃうよ。

タカシ いや、それは残しとけよ。

イヴ …分かった。

タカシ 会話ができるって楽だな。当たり前的事だけどここでは新鮮な気持ちだ。お前らは何かないの？

アダム え？ゴメン。リンゴに夢中で。

タカシ 何も感じなかったのか？

アダム さっき何て言ったの？

タカシ 聞いてなかったのかよ。俺達と会話ができるようになって何も感じなかったのか？

アダム 特には…。

タカシ あっそ。

イヴ 私達の中では何か変わったって実感がないの。喋れなかった時の記憶は何となくでしか覚えてない。

タカシ でも俺の事はすぐに分かったよな。

イヴ 別に忘れてる訳じゃなくて、何て言ったらいいのかな。

アダム 子供の頃の記憶って大人になるにつれて詳しい内容は薄れて行くじゃん？でも完全に消える訳じ

やなくて何があったのかぐらいは覚えてる。そんな感じじゃない？

タカシ お前ら生まれた時から大人だったぞ。何でそんな事が分かるんだ？

アダム 常識でしょ。

タカシ お、おう。

イヴ それより今日のご飯何？

タカシ それはまだ買い物途中だから考えてないけど。

イヴ 最近コンビニ弁当ばかりだからちゃんとしたの食べたいな。

タカシ 今日はちゃんと作るから。

イヴ やった。ありがとう。

アダム参考書を手にとる。

アダム　タカシ、医大ってなんだ？

タカシ　は？

タカシ、アダムが参考書を持ってる事に気づき取り上げる。

タカシ　何だ？文字も読めるようになったのか？

アダム　さっき蛇谷が言ってたんだよ。タカシは医大に行く為に勉強中だって。何か心配してたよ。

タカシ　…そうか。

アダム　なあ医大って何？

タカシ　医大ってのはな医科大学の事。お医者さんになる為の学校だよ。ほら、イヴが風邪引いた時に病院  
って所にいったら？そこでイヴを診てくれた人になる為の学校。

イヴ　学校って？

タカシ え？それは…沢山の人と一緒に勉強する所だよ。

イヴ ふーん。そこに行く為にも勉強しないといけないのか。タカシはお医者さんになりたいんだね。

タカシ まあな。

アダム でもタカシ勉強してないよな？

タカシ え？

アダム タカシが勉強してるところ見たことない。ずっとバイト行って、ご飯作って、俺達と遊んで、寝る。

それだけだ。

タカシ それはお前達の面倒をみないといけないから！

アダム 勉強を邪魔したんならそれは俺達が悪いけど、タカシ勉強してないじゃん。

タカシ ……。

イヴ いろいろお世話になって何だけど全く時間がない訳じゃなかったよね。

アダム 何ていうのアレ？夢ってヤツだっけ？何かを得る為にはそれだけ努力しないとダメだと思うぞ。そ

れは昔から決まっている事だ。

タカシ  
分かってるよ、そんな事。

イヴ  
本当になりたいと思ってるんだったら、努力すると思うんだけどなあ。自分がしたいことをする為  
だったら、その努力も楽しいと思うんだけど。

アダム  
そうそう！お前これからはちゃんと勉強しろって。まあ俺達も昔はバカだったから大変だったと思  
うけど、今はタカシがいろいろ教えてくれたし、言葉も分かるようになったからさ。

イヴ  
私達も静かにしてるから。

アダム  
努力した人間にだけ、幸せは訪れるんだ。俺達の神様がこの様じゃちよつと嫌だし。

イヴ  
確かに。でもタカシなら必死に努力すれば大丈夫だよ。

アダム  
そうそう、タカシはヤハウエだからな。

タカシ  
分かったような事言ってるじゃねえよ！！努力したってな、どうにもならない事もあるんだよ！こ  
の次はあれか？努力の仕方が悪かったってか！？ふざけんな！何も知らないくせに上から物いつ

てんじゃねえよ！！

イヴ  
そんなこと誰も言っていないよ。



アダム　ちよつと落ち着けて。

タカシ　言われなくても分かつてる事をいちいち言われることほどムカつく事ってないよな！しかもついさっき言葉を覚えたような奴にいわれたらよ！

アダム　ごめん。

イヴ　ごめんなさい。

タカシ　出てけ。

アダム　え？

タカシ　出てけよ…早く行けよ！！出てけ！！

しばらくしてからアダムとイヴがはける。しばらくしてから蛇谷入ってくる。

蛇谷　凄い大きな声が聞こえてきたけど。

タカシ　……。

蛇谷 上がっていい？

タカシ ……どうぞ。

蛇谷 喧嘩したの？

タカシ はい。

蛇谷 二人とすれ違ったけど悲しそうだったよ。

タカシ そうですか。

蛇谷 何があったか聞いてもいいかな？

タカシ あいつら俺にもっと努力しろって。

蛇谷 どういうこと？

タカシ 蛇谷は医大目指してるのに勉強してるところ見たことないって。

蛇谷 ……もしかして私のせい？

タカシ いえ、そんな事は。

蛇谷 ごめんね。

タカシ 蛇谷さん、努力ってなんですか？

蛇谷 へ？

タカシ 努力してもどうにもならないことってありますよね。誰にだって限界があるんだから。

蛇谷 まあそうかもしれないね。

タカシ 結果が残らなければ努力が足りないとか、やり方が悪いとか、そいつの事を知ろうともしないで言いたい事言いまくって：それでストレス解消でもしてるんすか？

蛇谷 そういう人もいるかもしれない。

タカシ 俺だって最初は一生懸命勉強して、絶対医者になるんだって思っていました。でも一回落ちて：それから何とか持ち直して勉強して、でもまた落ちて：もうどうしたらいいか分からないんです。回りの奴らはそんな俺にいつ受かるんだ？ちゃんと勉強してたのかって：他人事だから俺を責めることが出来るんだ！俺の事何も知らない癖に！

蛇谷 あえていうけど、やっぱりタカシ君は努力が足りなかったんだよ。

タカシ ……。

蛇谷　ちよつと違う話になっちゃうけど、私は努力して自分が報われる為にするもじゃないと思うの。

タカシ　じゃあ何の為にするんですか!?

蛇谷　自分に自信を持ったためかな。タカシ君が医大に受からなかったのは自分に自信が持てなかったから  
だと思ふんだよね。

タカシ　そんなことは…。

蛇谷　本当にそうだと言ひ切れる?大丈夫かなとか不安にならなかつた?

タカシ　……。

蛇谷　不安になつたという事は今まで努力した自分を信じる事ができなかつた。自分を疑つてしまつたと  
いう事はその分努力が足りなかつた。別に結果を残せない事を責めてる訳じゃない。自分を信じら  
れなかつた事を言っているの。タカシ君の世界はタカシ君が作つてるんだよ。出来る事も出来ない  
事も全部君自信が決めてる事なんだよ。

タカシ　……。

蛇谷　あの二人は君を責めた?

タカシ ……いいえ。

蛇谷 協力してくれるって言ったんじゃない？君を信じて。

タカシ 聞いてたんですか？

蛇谷 そりゃあんな大声出されたらね。

タカシ すいません。

蛇谷 で、どうするの？

タカシ 迎えにいつてきます！

タカシはける。蛇谷も部屋を出ようと扉を開けるとそこにはザビエルが立ってる。

蛇谷 わっ！！

ザビエル エンツ！

蛇谷 ビックリした。

ザビエル お互い様デス。

蛇谷 ああ私この住人じゃないので。

ザビエル 知ってマス。タカシさんは今ドコに？

蛇谷 知り合いだったんですね。たった今出ていったの用があるなら伝えておきますよ。

ザビエル いえ、大丈夫デス。

ザビエル中に入る。

蛇谷 ちよつと、勝手に入っついていいんですか？

ザビエル 大丈夫デス。チヨオー仲良しなんデ。

蛇谷 でも…。

ザビエル いやもう仲良過ぎて、自分の家と間違えてココに来ちゃったみたいなの所あるんデ。

蛇谷 そうですか…じゃあ私はこれで。

ザビエル　ちよつと待つて下サイ！

蛇谷　何ですか？

ザビエル　アナタは神を信じますか？

蛇谷　ええ、信じてます。

蛇谷はける。

ザビエル　そうですか…それは残念。まだ土が大量に余ってるのニ。次は何処に行きましようかね。

暗転。

終幕